

木工体験・うちわ作り

1月16日、あぐりキッズスクールを開催しました。

いす作り



清水木工等体験センターへ行き、折り畳み式のいす作りに挑戦しました。
角のみ盤やトンカチなどの使い慣れていない道具に苦戦していましたが、集中してパーツを組み上げていきました。

うちわ作り



また、体験交流工房わらしでは和紙を使用したうちわ作りを行いました。
うちわの骨組みにのりを塗ったあと両面に和紙を張り付け、和紙の間には千両の葉を挟み、一人一人が好きなデザインに仕上げました。

全国に向け販売スタート！

1月17日、「蔵出しみかんキャンペーン隊」の結団式をとれたて広場で開催しました。



海南市の神出政巳市長を始め、JAながみねや生産者、和歌山県・海南市など行政機関で組織する地域ブランド推進連絡会議同連絡会議の関係者らが参加しました。

今年は、新型コロナウイルスの影響で同キャンペーン隊による消費拡大を目指した市場や消費地でのPR活動は自粛。新たなPR方法として、同市長や同連絡協議会の岡畑浩二会長からのビデオメッセージを大阪や東京、札幌の市場で流します。札幌や釧路、新潟では福祉施設へ蔵出しみかんの寄贈も行います。

今年のみかんの出来は、梅雨の時期の長雨の影響が心配されましたが、夏場の乾燥により糖度が上昇し、糖と酸のバランスが取れたみかんに仕上がりました。



また、JAながみね下津柑橘部会は1月15日、海南市下津町の蔵夢選果場で、特選ブランド「雛みかん」の祈祷式を行い柑橘部会員、JAの販売担当者、県の関係者ら15名が参加しました。

「雛みかん」の名は、ひな段の右側に飾る「右近の橘（みかんの原種）」にちなんで子供たちの健康を願って付けられており、光センサーで選別した糖度12度以上のみかんに、ひな段に供えられるよう1kg入りの小袋を付けて出します。

温州みかんの起源に縁のある橘本（きつもと）神社の前山和範宮司が無病息災、販売促進を祈願し、関係者らは祭壇に玉ぐしを捧げました。

柿の剪定講習会

1月6日、海南柿部会で剪定講習会を行いました。



講習会には生産者24人が参加し、講師は同JA海南営農生活センターの宮脇敏彰営農相談員が務めました。

剪定作業はハサミやノコギリを使用し、実演を交えながら解説。剪定のポイントとして、樹体全体に日光が当たるよう、内向きの枝や重なり合っている枝を優先的に間引き剪定することを指導しました。今後の摘蕾・摘果の作業負担軽減のため、結果母枝の先端2～3芽を冬季剪定で切り落とすことも呼びかけ、剪定は休眠期となる12月～2月下旬まで行います。

料理コース

1月28日、男の道楽塾（料理コース）を開催しました。



ピザパン



堀田理沙さんを講師としてお招きし、クリームパンとピザパンを作りました。

パン生地をこねる作業や、今回はカスタードクリーム作りも体験し、「カスタードクリームが好きなので、自分で作れて嬉しかった」と好評でした。ピザパンにはピーマンやウインナー、最後にチーズをのせ、こんがり焼けた美味しそうなパンに仕上がりました。

参加者は「パン作りは滅多にできないので楽しかった。また自宅でも挑戦してみたい」と話しました。